

神宮神誠註釋

館藏書目大			
一册	三四號	四架	一七函

特35

752

014142-000-0

特35-752

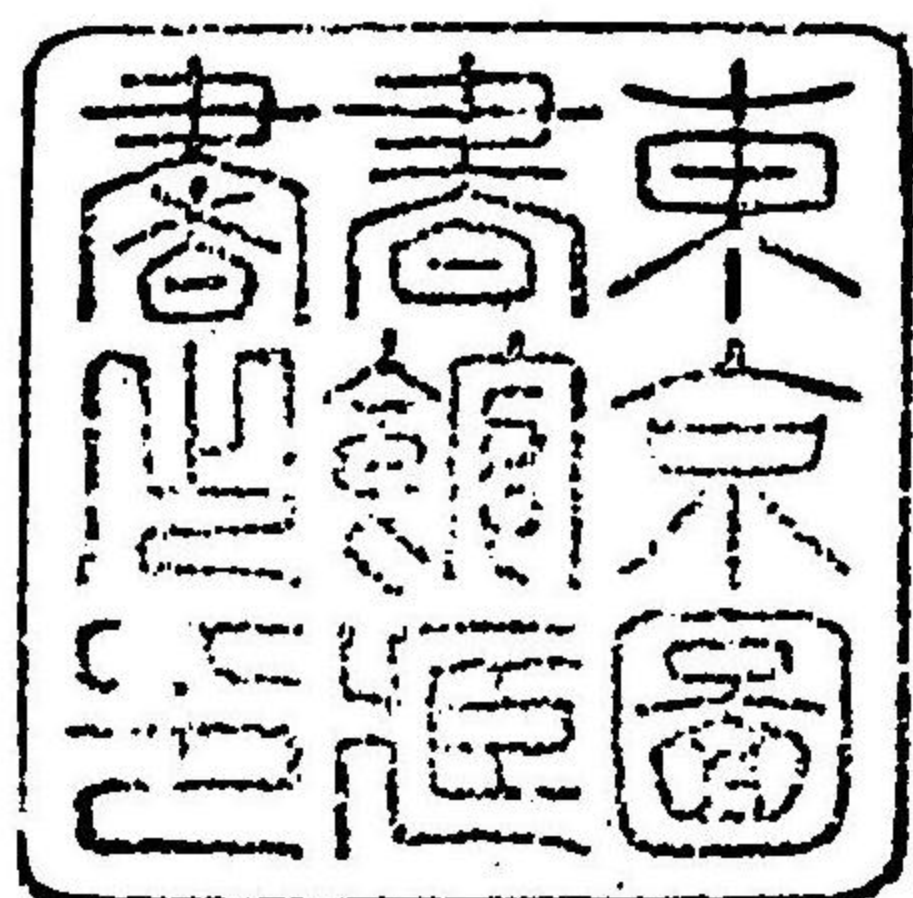
神誠註釋

葵川 信近 / 著

M12

ABB-0418



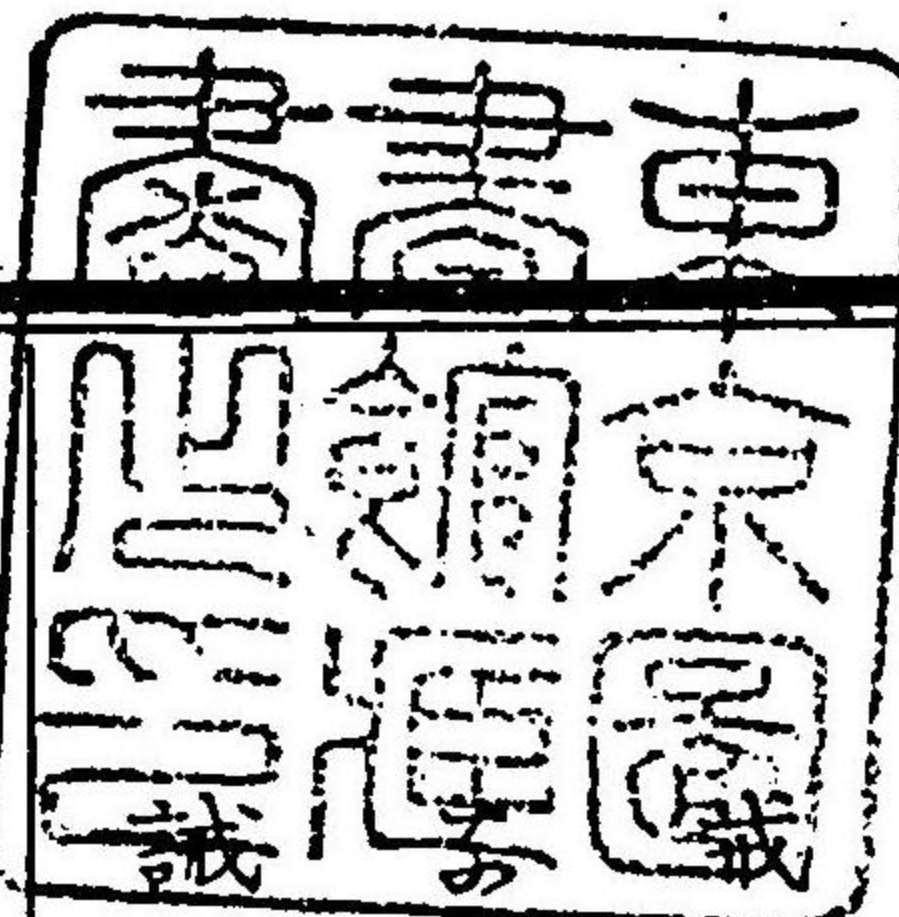


神誠註釋

神誠

少教正葵川信近

神誠と云ふは支那ふて天命といひ天戒といへるふ同し(天命の二字は漢籍六經を始め諸書小見え天戒の二字は書經を始え春秋公羊傳胡氏傳前後漢書等小出づ字書小と通して誠小作る誠亦戒よ作る誠と勅しんじつて命あり命の教ありと云へ了然ぜんぜんと神と天神の命天神の教といふ義ぎるて凡人



天神の命を受て行ふそのまゝ古事記小
天神誥命以詔伊邪那岐命伊邪那美命云々
とある是即上天の命令を人々の受て傳ふ
所以あり夫天神吾人を産み賜ふ時小吾人
の神魂小賦命たまへる小善行ふべし惡
ハ行ふべからずと云ふ御心を以て善性を
賜ふるものぞ此心人々己が心よ問て見
よ誰も本心小記あるものなや古歌ふも無
き名ぞと人小く云ひて有ぬべし心の問は
じいかは答へ出とある是神誠の第一義也

リ(外國の人ふも天神か此心を賦命賜へる
故小即此心あるを以て民之秉彝好此懿徳
と云へり)又其本心小所記隨よ正真小行ふ
て偽のまきを誠といふ誠も天神の御心よ
して即神の道あり即人の本心あり其誠の
隨小清く明く正く直く(天神の命令の隨よ)
行ふまじをむ神代より神習小習ふ傳へ來
たるそのまゝ古事記小我御世の事能許曾
神習とある是あり故萬善皆神誠なる小唯
其五條をのこ此小揭示するハ中よ就て緊

要するものを擧げたるまでもて異趣ある
小ならず

一 天津御祖を敬ふべし

天津御祖といふ天御中主神高皇産靈神神皇
産靈神天照大御神等を合せて稱よつる
り(古書小御祖或は始祖といふ)天御中主
神のこゝと云ふ桓武天皇の時小天御中主
を以て和漢諸國の始祖とせる書ありけり
とぞ伯家學則小も天御中主神を天祖と稱
へられたる然もむろちよらせして天祖と云

ふハ天御中主神のたとふるを高皇産靈神
以下小も及かしてまをす稱といふもり古
語拾遺よ天祖天照大神高皇産靈尊とある
是あて日本紀纂疏小ハ天御中主神より神
皇産靈神までの三神を天帝也と云へりさ
もむ天上最も尊き四柱の大神を並べて天
津御祖と稱へ奉るあり夫人各其父祖を敬
愛つる心あり此心即神誠ふり此心を推し
て父祖の大本を原れハ天津御祖の神ふて
即吾人の父祖を生し且吾人を生し特小神

魂を賦命て活潑しめ給ふ實に世界の
大御祖あり是の故に吾人の心は天道を畏敬し
心あり此心を天誡に非ずして何ぞや此心
を失ひたるものか神不見放さまたるもの
あり長く生てありとも何のらふあるべ
き

一 皇國の御恩を念ふべし

吾が父祖の國吾が身の生れ出でたる國
にして此土の水を飲み此土の穀を食ふ此土
の衣を着て成長且此土の主君に仕奉りて

此土に住居する故に皇國に生れたるもの
に皆皇國を内と異國を外とする情あり
此情を大小擴充めて其恩を報いむと國の
爲を思ふに即神誠あり天押日命のこゝろ
に小海行つむ水づくらむ山行らむ草む
す屍大君のへふあや死あめらるるを思ふ
べし故外國の人といふとも各自其國を愛
ふ情の厚きに皆天神の命あり況て我が皇
國の人民とある者をや
人たる道を守るべし

道といふものの神の定めたる天則
て即神の心なる故に聲もあはく臭もあはく形
の見えぬもの多しさまじき君臣父子夫婦兄
弟諸親族師弟交友の人類の皆現る形あり
り其形者も接際するに必ず形の見えぬ道
といふ神の心が吾人の心神に固有して之を
行ふこととを所記するに其所記してある隨小行
ふも通義の務あり恰猫の鼠を捕が如く雞
の時を報が如く君への忠義父への孝敬君
臣民を恵む父の子孫を慈む等を始め凡

て人の接際も通義の務ありて神代より人
人受け傳る所なり斯理を明かして人たる
道を守るべし人の通義の務たる道を守る
がもそのを豈人と云ふべからず禽獸すら
天神の賦命たるいたる道よを知らず識ら
ず循り況て人たる者も於てをや萬葉集小
山上憶良の歌も人倫も離棄たるものを
指して岩木より出でかへり人うと云へり實
小己が心も問て見よ神誠といふもののハ吾
本心も存在べし疎忽も思ふべきもあらざ

か

一 家業を勵む勉むべし

禽獸ハ天産衣服・天産食物・天産住居ふして
 人ハ人工衣服・人工食物・人工住居ふして天
 神ハ禽獸ハ安佚を與へて人ハ苦勞を爲
 一 するうと疑ふものあるべしと決て然
 らず天神ハ人を格別ハ愛顧て萬生の長と
 一 大任を負擔せて造化の功を贊しめむ
 爲小貴重神魂を分賦たまひ良智能を附與
 たまい禽獸草木ハ役使し供へ尚學習思

辨勤苦をふさしめ其良智能を附益し天道
 流行て須臾も息ざる如く日夜間斷なく各
 其家の業を勵む勉めて唯自己の衣食住を
 いよふものならず兼て天下の有用ハ供
 一 め給ふものなり天下の有用ハ供すとい
 他事よららず天下の人々貴賤賢愚を問て
 士農工商各異なる職業群殊の智能を以
 て相助け相報いて天下諸物の有無天下萬
 事の巧拙悉皆參互錯綜交換融通して相治
 するものなり然るも人ハ各自其智能をば

たらしむ職業を勤勉つとむす。即上天の命令たまはふ
して伊邪那岐伊邪那美命より今日こんにちふ至いたる
まで皆誰みなも受多傳うけたつたる業わざよして人の萬物よろもつふ
長たる所以ゆゑは正續日本紀の詔みことたまはふ。緩怠事無ゆるそそ
久務結而仕奉止ひさむすぶ詔又日夜忘事無久務ひさむすぶ志こころ
麻理伊佐乎志久奉仕爾依あそあどあるよあ
らずや況いはて愚夫おろその心こころも遊手徒食あそび歌行うたす
まど身みも家いへも立たざることをしり其之そのことを
知しること其性そのせうふ家業いへわざを勵たげむ勉こころまべさ神誠かみまこと
を固有たもてることふゆゑあまゆめ怠おそり緩ゆるふと勿なそ

一 惡き行いおらるべし

人の本心ほんこころふ善行ぜんぎやうくおすことをし惡行あくぎやうのことおすべ
ららずといふ理ことを知らげるとあは是これ吾われが
心こころよ神誠かみまことを記しるする一證ひとしるしあり且かつ善行ぜんぎやうをしおせ
む吾われが心こころ清明せいめいあり惡行あくぎやうをしおむ吾われが心こころ鬱ふさ
暗くらかり其鬱ふさ暗くらき本心ほんこころが咎とがれたるは是これ本心ほんこころ
小神誠こかみまことを記しる二證ふたしるしあり又人の善行ぜんぎやうを聞きけ
む人皆之ひとみなを慕こほふ人の惡行あくぎやうを聞きむ人皆之ひとみな
を惡にくむ其之そのことを惡にくむ本心ほんこころふ違ちがへどあは是これ
本心ほんこころよ神誠かみまことを記しる三證さんしるしあり況いはて神誠かみまことを神かみ

習しゆ小こ習しゆ心しん傳でんへたるものをや續つづ日本にほん紀ぎの語ご
 小こ明めい支し清せい支し直ち支し誠せい之の心しん以もつてとあるを思おもふ
 べし若し人ひと々々各自各自此この神かみ誠まことを志こころする明あきき清せい
 き正ただき直ただに誠まことの心こころよておがら穢きた濁なき私わが欲ほ
 の妄まが慮ら小こ勝かちきて其その明あきを晦くろし其その直ただを曲まぶて
 惡わるし陷おちるものし自こころ棄す自こころ亡なしのなるし小こ神かみ
 尚なほ之のを救すけい助たすけむ為ため小こ解と除らの神かみ法ほうといふ
 其そののをたて賜たまへて豈いか猛もう省しやうざるべしや

神誠註釋 終

定價五錢

神宮教院藏版

明治十二年十一月七日
版權所有屆濟

製本所

伊勢山田三志町

加藤長平

